

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2774201368
法人名	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
事業所名	春日丘荘グループホーム
訪問調査日	平成 19 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774201368
法人名	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
事業所名	春日丘荘グループホーム
所在地	大阪府茨木市南春日丘7丁目11番22号 (電話)072-625-6466

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号
訪問調査日	平成19年12月12日
評価確定日	平成20年1月11日

## 【情報提供票より】(平成19年10月31日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 3 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 7.0 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	17,500 円	
敷 金	有( 円)	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4)利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	大阪府済生会茨木病院 森山歯科医院
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、大阪モノレール彩都線・阪大病院前駅から徒歩5分の、交通便利な場所にある。周辺は、万博跡地で当時に植えられた樹木が大きく育ち、自然が豊かな環境にある。管理者は併設の特別養護老人ホーム春日丘荘の責任者を兼務しながら、介護のノウハウについては、特養の知識・技術・システム及び人材をグループホームの運営に活用している。職員は明るく、お互いに助け合いながら、9名の利用者の生活支援を行っている。特に、定期的な介護計画の見直しに活かすために、日常の利用者の状況をケース記録や他の資料を含めて詳細に把握して整備できている点は、職員の目に見えない努力と苦勞が感じられると同時に、特養との併設型である当グループホームの強みであると思われる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題として取上げた内容が、ホーム入り口の判りにくさがあったが、案内板を増設するなどの改善が行われ、今回の訪問調査で確認出来た。全職員で改善課題への取り組み姿勢が感じられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員が参加して、意見を出し合い行われた。職員はサービス評価について理解している。家族に対してもサービス評価について説明しているので、家族アンケートの回収率が高い。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホーム側から現在の取り組み状況、行事予定、家族からの話等が報告され、地域の代表者からの質疑等が行われている。地域に開かれたホームの実現という、ひとつの目的は達成している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム開設当初より家族会を立ち上げて、家族間の連携、ホームとのコミュニケーションづくりを行っている。家族の訪問が頻繁にあり、職員は利用者の暮らしぶりを報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの建物が特別養護老人ホームの敷地内にあり、民家に隣接している状態ではないので、散歩や買い物や、地域行事への参加、ボランティアの受入れを積極的に行って、地域との接触を確保しようと努力している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『利用者に「安心」「安全」「満足」をモットーに地域や家族の協力を得ながら(途中略)品質の高いサービスを提供し、近隣地域との交流や連携を深めてゆきます』という独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、定例のスタッフ会議等にて自らの取り組み姿勢を反省し、理念を周知徹底して日常の介護支援に取り組むように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	すぐ隣り近所に民家があるという立地条件ではないので、買い物や散歩や地域行事参加の場を利用して地域との繋がりを持つように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題については改善が確認出来た。自己評価についても、職員が参加して日ごろの介護サービスの質について話し合いながら、取り組み課題の発見に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター、地域の代表及び家族会の代表が出席して行われている。会議で確認した課題については、ホームの運営に活かすように管理者は取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は市主催の事業所交流会や、施設サービス部会部長役を引き受けるなど、行政との情報交流や連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が頻繁にあり、職員は利用者の暮らしや変化を詳しく報告するように努めている。急ぐ用件は電話等で報告して漏れの無いようにしている。ホーム便りを毎月作成して活動や予定を家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設立当初より家族会を設けて家族同士、及び家族とホーム間のコミュニケーションを良くするように努めている。職員は出来るだけ家族の本音の要望意見が聞きだせるような対応を心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人材育成のために法人内の職員の異動はあるが、管理者は職員異動による、利用者及び家族への影響を少なくする事を考えている。ホーム便りに職員のプロフィールを載せるなど、家族と職員の良好な関係を維持するための取組みが見られる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成を大切に考えている。外部、内部研修の機会を設けて、職員が交替で講師役を務める相互研修など研修の方法を工夫をして、職員全体のレベル向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の施設サービス部会での交流や、近くの同業者との独自の情報ネットワークがあり、相互に行き来するなど情報交換に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、利用者が徐々にホームの生活に慣れるように、また、他の入居者との良好な関係が保てるように、職員が家族と相談しながら、サービスを開始するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とお互いに信頼できる関係を保つために、スタッフ会議等で職員同士が話し合いながら、利用者支え合う関係を作るように努力している。職員同士も限られた人員の中でお互いが助け合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように暮らしたいか等の情報が個人ファイルによく整備されている。家族の訪問頻度が多いので、職員は家族の協力を得ながら本人の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書は本人や家族のアセスメントをベースに、医師や関係者と相談して本人本位に作成されている。書式や記載内容にも経験と工夫が感じられる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとの日々の暮らしぶりや、介護状況が丁寧に記録され、さらに、毎月のまとめがケース記録に総括されている。併設の特別養護老人ホームの介護記録のノウハウをグループホームに適用するなどの工夫が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて外泊支援や移送支援等できる限りの対応を柔軟に行うように心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していたかかりつけ医を尊重しながら、希望によりホーム契約医療機関に変更する時もある。入居前の医療受診状況を把握して、希望する医療機関による受診が出来るように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については入所時に施設側の方針について、本人及び家族へ説明をしている。実際の対応では、本人及び家族とかかりつけ医と相談しながら、状況に応じた出来る限りの支援を行っている。指針等を文書化するまでは出来ていない。	○	重度化や終末期の対応については、文書化するようにして重要事項説明書の付属資料として用意することを検討して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを大切に言葉かけや、日常の自立支援をするように、スタッフ会議等で再確認しながら利用者へ接するようにしている。個人情報の取り扱いについても職員に徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床から夜の就寝までの一日の生活は、本人のリズムとペースを尊重した対応が行われている。残された利用者の能力が維持できるように、職員はいろいろな場面や楽しみごとを工夫しながら、共に暮らす日常が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の特別養護老人ホームと同一のメニューであるが、メニューの一部をホーム独自で追加して作っている。菜園で取れた季節の野菜なども食材に取り入れている工夫も行っている。職員も一緒に会話を楽しみながらの食事ができている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日用意している。利用者の希望を尊重しながら、週に3回の入浴をするようにしている。家庭的な浴槽でゆっくりと入浴できるように心掛けている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や経験について、入居後に知った情報を含めてファイルにまとめられている。職員は本人の楽しみ事や、生きがいを活かした家事や趣味を考えて、気晴らしのための場面作りを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、併設のデイサービスのレクリエーションへ参加する等、天候と体調を考慮して、出来るだけ外の空気に触れると共に、利用者のADLの低下を防止するように職員は努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中は施錠しないで、ケアを行うように職員は努めている。昼間は1階の居間や食堂で、利用者が過ごす時間が多いので、職員はそれとなく気をつけながら利用者の見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練だけでなく、職員は万一に備えて毎月の避難訓練を続けている。総合訓練は併設の特別養護老人ホームと合同で行うなど、施設全体の防災組織体制が出来上がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確保はチェックされている。食事摂取量他の体調管理のデータは利用者ごとに毎日の記録が整備できている。水分摂取量については記録していない。	○	水分摂取量については、個人毎のおおよその状態を職員は把握しているので問題は無いが、体調管理項目として職員が意識する意味においても、記録をとるのが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はスペースが広く確保され、食堂、居間は障子で仕切られて和風の落ち着いた雰囲気がある。浴室やトイレもわかり易く配置されている。2階の居室ゾーンの廊下が広く、階段の勾配も緩やかに造られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きで落ち着いた感じがする。利用者の馴染みの家具や仏壇が持ち込まれており、職員が家族の協力を得ながら、利用者が安心できる居室作りに努めている様子がうかがい知れる。		